

「ロータリーを学ぼう」

25・26年RI会長マリオ・セザール・マルティンス・デ・カルマゴ氏から、昨年秋にメールが届きました。その中で、RI会長テーマは設けず、会長メッセージを国際協議会で発表するとありました。その意味することについては、後で私の理解したところを述べます。

国際協議会に先立って1月19日、マリオRI会長エレクトを囲む会への招待が私たち同期のガバナーエレクトに届きました。私はその会で、第2540地区の現状と今後の計画について話すことが求められました。この時のマリオ会長エレクトの話で強く印象に残っていることは、ロータリーの財産はロータリアン一人ひとりであると明確に言ったことです。ロータリーの目標は、1に会員拡大、2に会員拡大、3に会員拡大であると、membershipと3度叫ばれました。

国際協議会で発表された25・26RI会長メッセージは「Unite for Good」です。公式和訳では「よいことのために手を取り合おう」です。7回の本会議で語られたことは、ロータリーを拡大し、寄附金額を増やし、世界で行う「よいこと」をより多くしていこう、ということに収斂する印象を持ちました。DEIを意識し、多様なクラブのあり方、「よいこと」をしたいと願う人々をロータリーの仲間として受け入れる会員制度の柔軟な設定、衛星クラブや若い人でも入会しやすい特化型クラブの創設が熱く語られ、報告されました。

分科会は、本会議で語られた内容をGE一人ひとりが自分のものとするためのグループ協議でした。ロータリー行動計画はその目的として「私たちは世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する世界を目指しています」と宣言しています。4つの重点事項として、インパクトをもたらす（Impact）、基盤を広げる（Reach）、かかわりを促す（Engagement）、適応力を高める（Adapt）が指針として示されています。これに関連して、3-Year Rolling Goalsを各クラブが計画することが勧められています。マリオRI会長エレクトがテーマをおかない理由の一つが、単年度のRIテーマにクラブが縛られないためであるとしています。Rollingには回転しながら前進するという意味があります。

3年後の目標を明確に設定し、達成の評価を可能にし、そこからまた次のゴールを設定していくのです。各クラブ会長が、この作業を担当します。クラブ会長の行動計画作成を補佐するのが、各クラブの行動計画推進委員（APC）です。地区では新たに行動計画推進委員会を設置し、委員長（APC）のほかに、ガバナーエレクト、ガバナーノミニーを委員とし、会員拡大増強委員長、公共イメージ向上委員長らと共同してクラブの支援に当たります。

私は、ロータリアンとして迎え入れられたことに大きな感謝の気持ちを持っています。よき仲間たちと楽しく居心地の良いクラブ生活をのほほんと送ってきました。ガバナーノミニーデジグネットに選出されてから、あわててロータリーの勉強を始めました。その突破口となったのが、RLIへの参加でした。大きくロータリーの世界が広がったのでした。RIから地区テーマ、クラブ会長テーマはおくべきではないと通知されましたので、テーマではなく、私から地区のロータリアンへの呼びかけです。



ロータリーを学ぼう。学ぶことによってロータリーの世界が実感できます。ロータリアンとしての誇りと自覚が強化されます。一人ひとりがロータリアンとしてのストーリーを持ちましょう。それを語ることで、ロータリーのイメージを上げ、会員拡大に繋げることが可能になります。まずはRLIに参加し、ロータリーを学びましょう。ロータリアンの土台を作り、その上に、世界で、地域社会で、「よいこと」をするために手を取り合って、力強く未来に、前に向かって進みましょう。

